

令和6年度 第4回公立幼稚園のあり方検討会（会議録）

日時 令和7年1月31日（金）午後2時～午前4時

場所 森町保健福祉センター2階 機能回復訓練室

出席者 会長 田宮 縁
委員 萩本 弘江
委員 鈴木 秀臣
委員 増田 博行
委員 安間 初実
委員 渡邊 浩之
委員 平松 悦夫
委員 平出 麻子

（事務局）

学校教育課長	塩澤 由記弥
健康こども課長	朝比奈 礼子
健康こども課長補佐	川島 直子
幼稚園保育園係長	米倉 雅俊
幼稚園保育園係主事	菅沼 朋恵
幼稚園保育園係指導主事	小倉 寿加子

出席 委員8名・事務局6名

議事 (1) 今後の再編方針について
(2) 公立幼稚園のあり方に関する今後の方針について
(3) その他

議事要旨

1 開会（課長補佐）

2 挨拶

会長：このあり方検討会も最終段階となりました。1年間携わらせていただき、非常に多くのことを勉強させていただきました。まず、各委員の皆さんがそれぞれの立場から、忌憚ない意見や思いを語っていただくことができたと思っておりますし、本日もぜひそのよ

うにしていいただければと思います。また、森町の事務局の検討会の運び方が丁寧かつ非常にスマートで学びが多かったところです。会長として十分なことができたかは、分かりませんが、最後のあり方検討会となりますので、この時間を有意義なものにしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 今後の再編方針について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

会長：ただいま、「今後の再編方針」についての説明がありましたが、委員の皆様から意見や質問等がありますか。資料2の3ページ目の括弧書きについてのご意見を中心にいただければと思います。

委員：前回の検討会で1学級の最低基準を決め、基準を下回った場合には休園を検討することとなりました。最低基準を決定するにあたり、なるべく園を残していきたいという思いを感じましたが、今回の再編方針では、今後のことを考えて、最低基準を満たしているけれども、ある時点で1つの園にしていくということを町として決めておきたいのかなと思いました。

令和12年度というのは5年後ですが、そのあたりである程度決めていこうという流れになるのかなと思います。ただ、最低基準を満たしているけれども、休園となる可能性があるとするならば、園舎の改修や、認定こども園化しますというような、方向性を前もって示していくのがいいのではないかと思います。

会長：今、お話しいただいた内容は、ちょっと提案と齟齬があるような感じがしていて、要は「1学年5名以上、園全体で15名以上」になっていた場合でも、このように進めていくのかどうか、不明な部分があるということですね。

委員：はい。

会長：小学校に対応した園数を残していきたいという意見もありながら、あまりにも人数が少ないと、教育・保育の面で難しい部分もあるということでの方針ですが、最低基準を満たしていた場合でも、認定こども園に移行や統合を進めるのでしょうか。

事務局：前回、最低基準を決めさせていただき、委員の皆様から「できる限り今の体制を維持していきたい」「小学校が3校あるので、それに合わせて幼稚園も3園」というようなご意見をいただいております。それを踏まえまして、今後の再編方針に、「当面は現

状の幼稚園数を維持する」という内容も記載しておりますが、やはり将来的には、第1回、第2回の検討会でも示した通り、園児数が減少していくことが予想されます。そのため、最低基準を下回るのを待つのではなく、中長期的な方針として、どこかのタイミングで統合、再編するというような、明確な今後の方針を決めておきたいという事務局の考えがあり、このように記載しています。

令和12年に、1園にしていくという再編方針は、最低基準を決めて現状維持していく方向からは逸れてしまいますが、町としてはどこかのタイミングで需要を見ながら、判断していくことが求められていると思います。「幼稚園の魅力アピールや情報発信をしてほしい」「幼稚園の入園児童を増やすような取り組みを」というようなご意見もありますので、その点も方針に入れつつ、教育需要の動向を注視しながら、検討していきます。その上で事務局の考えとして示しているところですが、委員の皆様から様々なご意見いただきながら、方針をまとめていきたいと考えております。

会長：ありがとうございます。教育需要の動向など先のことを見ながら進めていかないと急に再編するのは難しい部分があるので、皆様からまずご意見をいただいて、それも踏まえた上で方針として持っていけるといいのではないのでしょうか。
他にはいかがでしょう。

委員：先日、幼稚園の参観会があり、参加したのですが、活動にまとまりがあり、年少さんから年長さんが遊戯室で一緒に交流している姿をみて、少人数の良さを感じたところです。

年少さんが2人ということですが、2人となるとドッジボールもできないので、やはり、5人という目安は、本当に最低限だと、改めて思った次第です。

会長：もしも、次年度の入園者が沢山いて、15人を全体で満たしていたという場合でも、こども園への移行を進めていくとなったらどのように思われますか。

委員：やはり事前の告知があって、選択していただくのが一番良いと思っています。通われている方の意見が一番大事だと思いますので、事前に告知がしっかりとされた上での選択で、ということでしたら良いのではないかと思います。来年度は5人程入られると聞いたので、園全体で15人以上という基準はクリアできるかなあと思ったのですが、来年度以降の入園人数を基に進めていただきたいと思っています。

会長：やはり動向を見ながらですね。どのように推移していくのか見ながら、5年間の猶予がある中でどのタイミングで判断するのか、5年後に飛躍的に変わっているケースも考えながら判断することになるのではないのでしょうか。

委員：前回と今回の説明を聞かせていただいて、認定こども園への移行を町として進めていきたいというような思いがあるのかなと受け取っております。実際ニーズがあるということでは必要なことだと思います。

1園に統合するのにあたって、それだけ人数が減るまで認定こども園への移行を待っているのでしょうか。または、現状幼稚園がある中で認定こども園を新たに新設するのかなどして、幼稚園と併用していくような考えはありますか。新設した認定こども園に需要があって、そちらの方に流れていくのならば、幼稚園を休園していくような選択肢もあるのかなと考えまして、別に1園に統合するまで待たなくても、よろしいのではないかというのが意見です。

事務局：補足となりますが、括弧で示しているのは、あくまで目安となりますので、何年を目処にするのかについても検討して決めていただきたいと思います。

資料2で、事務局の考えを括弧書きで示しておりますが、必ずしも、認定こども園に移行していくと掲載する訳ではなく、先ほど会長からも言っていた通り、皆さんのご意見を踏まえつつ、最終的に決めていければと考えておりますので、引き続き皆様のご意見をいただければと思います。

会長：1園を先行して認定こども園にするという選択肢もあるのでしょうか。そうするともしかしたら、幼稚園から認定こども園に自然に移行していく可能性もありますよね。

事務局：検討を進める中で先行して1園を認定こども園化していくという方針になることも考えられると思います。

ただ、その場合でもいつまでに1園を先行して認定こども園化するのか、明確に決める必要があると思っています。認定こども園にします、検討しますと言ってから子どもが通えるようになるまで時間がかかります。既存の園を改修せずとも、こども園にはできるのですが、それでも検討から合わせると、1年から2年は移行するまでにかかってきてしまいます。新設となれば、おそらくその倍ぐらい、建設まで入れると数年かかってしまうことも考えられるため、認定こども園を考える上では、早めに検討しなければいけないと思っています。そのため、事務局の先ほどの資料の中で説明したように、時期を決定するというのはかなり大事なところになります。

教育需要が落ち込んでいる中で、本当に認定こども園にする必要があるのかどうかも含めて、ご意見をいただきながら決めていきたいと考えております。

会長：今のように意見を述べていただけると良い案が出てくる可能性もありますので、それが全て実現するわけではないですが、いろいろな意見をいただければと思います。

委員：認定こども園を新設するまたは、1園を認定こども園に変えることも考えられると

思います。認定こども園化が、新たな移住者を呼び込むきっかけになる可能性も含まれているものですから、前向きに検討していただきたいというのが私の意見です。

委員：まとまっていない意見にはなっていますが、園舎については、第1回でもお話をさせていただいた通り、耐用年数が迫っていますし、ハザードマップと見ると、土砂災害の警戒区域に近い園もありますので、新園舎を建てることは必須なのではないかと思っています。

質問なのですが、認定こども園化というのは、段階的にできるものなののでしょうか。認定こども園だと14時帰りの子と16時半帰りの子がいるという感じなのですか。

会長：幼保連携型ですと、18時半とか19時までとかまでやっていますし、幼稚園型でも預かり保育の時間があってとても複雑なのですが、保護者からすると、自由度が高い制度ではあるかなと思います。

委員：そうであれば、最初から幼保一体型ではなく、幼稚園型から段階的にやっていくのが良いのではないかと思っています。特に幼稚園から認定こども園になったからといって、教育の質が落ちるわけでもなく、逆に保護者の自由度が増すのであれば、積極的にやっていただきたいと思っています。

それに合わせてやはり施設の新設ですね。今年の夏は暑くて熱中症警戒アラートが発表されることが多く、外で遊べる日が少なかったです。体育館のような屋根がある場所で遊ぶことができる新設の園舎が必要になると考えています。

会長：今のお話の中で新園舎というのが出てきました。子どもたちの安全や、健康を配慮する上で必要だというお話だったかと思っています。

ただ、認定こども園に移行していくのはそんなに簡単なことではなくて、きちんとした制度に基づいたフレームを作っていかなければなりません。保護者の自由度が増すと、保育者はものすごく大変になります。園児によって何時に帰るかが変わってくるので、人数が少なればある程度把握はできるのですが、人数が多い自治体の場合だと、人数の把握だけでとても大変です。保育者の負担が大きくなり、保育の質は落とすたくはないがどうしても研修時間とかそういったものが割かれてしまうという、いろいろな問題もあります。

私はだからといって認定こども園に反対ではなく、認定こども園になっていくというのは、社会のニーズに対応したものだと思っています。

どのようにして作り上げていくかについては、もう少し検討が必要で、単に保護者の視点だけではなく、他の視点も入れながら進めていけると良いですね。

委員：前回までは最低基準の話をしていたと思うのですが、今回最後ということもあり、再編方針案を一つに絞っていくということで、このスピード感にちょっと驚いたのが正直

な気持ちです。

ただ、個人的にも、幼保連携型の認定こども園1園として新設するのはどうかと自分が話した覚えもありますし、ゆくゆくは移行していくのが良いのかなと思っています。認定こども園化にあたり、幼稚園職員の立場で言うと、幼保連携型になった場合の免許の問題であったり、それから会長がおっしゃった研修の面であったり、それから運営の仕方や方法であったり、色々準備していかなければならないことも出てくると思うので、ある程度目安が決まっていて、園としても準備を着々と進めていかないと、難しいのかなと感じました。

会長：認定こども園は幼稚園型にしても、幼保連携型にするにしても、どちらにしろかなりの時間がかかるので、例えば5年後に開園するとなると、今から準備を始めなければならないと思います。

もう一つは、認定こども園の制度はどちらかというところ、保護者の立場で、非常に活用しやすいというのがあります。先生方とか職員のことについても考える必要がありますし、かなり周知の準備がないと上手く運んでいけないかなと思います。一気に変えてしまうとかなりの軋轢が生じてしまうので、そのあたりを慎重に進めると良いです。

委員：自分なりに考えましたが、まず、保護者のニーズとして、共働きをしたいということがまずあり、子どもの人数はもう減少は避けられない。故に、ここ数年間で、保護者の選択は、幼稚園から保育園に移行している。アンケート結果では、認定こども園ができたならば、そちらの方を検討していきたいという思いがあるというところまで分かっているときに、目処はそのままでいいかなと思うのですが、やはり先行して、認定こども園を作っていく方向が良いのではないかなと思いました。

それぞれの園の人数が、今後最低基準とかを下回るとか上回るとかいうところの問題以前に、もう選択はそこしかないのだから、最終的に作るのではなくて先行して、認定こども園にどんどん集約をしていくというような視点を持った方が、森町としては、将来的にいいのではないかなと感じました。

そのために、我々は森町公立幼稚園のあり方検討会という、いわゆる検討チームですけども、認定こども園の設立のための検討チームをもう立ち上げて、それについての森町に住んでいる保護者の方のニーズや意識等の調査それから、今、森幼稚園の場所の問題もありましたけども、各幼稚園老朽化しているので、新たな土地の検討であるとか、もうそちらへ完全に令和7年度以降シフトをしていくようなプロジェクトチームを作ることも考えられると思います。

ただ、それはあくまでも案ですから、方針としては今回出されたような、令和12年度を目処に、認定こども園の移行を検討していくぐらいにしておかなければ、現在の段階では決定ではできないかなと思います。以上です。

委員：資料1の森町の将来推計人口を注視するとやはり、まずは2園で将来的には、幼保連携型の認定こども園として1園にしていく方法が考えられるのかなあと思いました。以上です。

会長：今まで出た意見を、まとめさせていただきたいと思いますが、やはり、先行して新しい施設を作っていくところに向かっていくのが良いのではないかとこのことでした。幼保連携型認定こども園なのか幼稚園型認定こども園なのかというところも含めて今後検討していくわけですし、認定こども園への移行は簡単なことではないと思いますので、早めに動いて行けると良いです。

いかがでしょうか。12年度を目処に、それと、認定こども園への移行を検討するというところですけど委員の皆様から何かご意見ございましたら、お願いします。

よろしいですか。それでは委員の皆様からのご意見や森町の現状を踏まえて、今後の再編方針について、事務局に最終案としてまとめていただきます。

事務局：ありがとうございました。一つ目の括弧は、事務局の案として大体5年後ぐらいを目安にということで、「令和12年度を目処に」と記載し、その次の括弧の1園に統合してのところは掲載せず、「認定こども園の移行を検討していくこととする」というような内容にさせていただきます。

最後の括弧書きの（なお、・・・）以降は、認定こども園への移行の検討する際の要素の一部ということなので、こちらは表記せず、最終の再編方針とさせていただきますと考えております。

会長：ただいま事務局の「今後の再編方針」について最終案の説明がありましたが、委員の皆様から意見や質問等ありますでしょうか。

それでは、「今後の再編方針」については事務局案のとおりとして、方針を決定し記載することとします。

（2）公立幼稚園のあり方に関する今後の方針について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

会長：ただいま、公立幼稚園のあり方に関する今後の方針について説明がございました。今回で最終的な方針決定を行うこととなりますが、委員の皆様からや質問等をいただきたいと思っております。

委員：資料1を読ませていただき、とても良い方針だと思えました。特に12ページの「また、地域で子どもを育てる・・・」から始まる文章ですけども、森町の人はものづくり

が好きな人が多いとよく聞きます。そのような豊富な人材資源をフル活用して、園児を呼ぶ込むために今からできることをやっていただきたいと思います。

今、保育園でもはた織りやお囃子など地域の特色あることをやっています。幼稚園でもやっていただいています。園児を呼び込むためにも魅力ある園として、教育の一環としても、この地域の繋がりを強化していただきたいですし、お母さん先生みたいな存在があると、またそれも幼稚園の魅力になるのではないかなと思っています。

認定こども園化云々の前に、こういったことを、どんどんやっていただきたいというのが私の意見です。

会長：心強いご意見ですね。要は目玉となるものがはっきりとわかることが必要だということですね。はた織りなど、地域とのつながりを意識してやっていくのであれば、何かそういう目玉となるものをちゃんとクローズアップして、短く一番メインにあるものを伝えられるような、広報の仕方ってものをこれからしていくと良いのではないかなということだったかと思います。

委員：こちらの方針で良いのではないかと思います。

保護者としての意見を入れてくださったので、私もその保護者としての意見を申し上げます。日本はどこも少子化なので人を増やしていこうというのはどこも考えることですね。なので、他市町と同じことやっていたら来ないですね。他市町がやらないようなことをやっていかなきゃいけないということで、なかなか役場の皆さんの責任っていうのが大きくなってきてしまうのであれば、申し訳ないですが、ぜひ健康こども課だけではなく、他課とも連携しながら、町を挙げて魅力あるまちづくり、そしてそれを発信していただきたいなと思います。子育て環境の充実さは、売り込みポイントのひとつになると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

委員：この方針で概ね大丈夫です。全4回参加させていただいて、幼稚園についてじっくり考える良い機会になりました。私の父、祖父も飯田幼稚園でしたので、子どもも喜んでいましたし、誇りに思っています。できれば続けて欲しいという思いもありますが、なかなか難しいかもしれないということで、飯田幼稚園の特色や伝統を掬い上げるようにしてまとめただけならと思います。

森町には、いろいろな知識を持った人がいるのでそのような人の力を使っていければ、園児が体験できることも増えると思いますし、そのような体験が目玉になっていくと思います。

会長：ありがとうございます。いろいろな世代の人たちと一緒に作り上げていく園ということがとても大切なのかなと思います。

委員：幼稚園教育の大切さを感じられるものだと思いますので、こちらで良いと思いま

す。

委員：この方針で問題ないと思います。

委員：よくまとまっており、考えられていると思います。ありがとうございます。
一つ質問で、言葉の関係ですが、11 ページの一番上の廃園とありますが、三倉幼稚園が閉じたとき閉園と言っていたと思います。どちらも同じような意味かなと思うのですが、廃園とした意図はなにかあるのでしょうか。

会長：私自身の気持ちとしては閉園の方がいいかなって思っていますが、行政で使われている用語があると思いますのでそちらにさせていただいて、廃園もしくは閉園とした説明ができればよいと思います。

私から一つ確認しておきたいのですが、資料2の13 ページに「また、私立保育所の認定こども園移行の動向を確認する必要もあるため」とありますが、動向を確認することによって、公立幼稚園を認定こども園化する再編方針が根底から変わってしまうようなことが考えられるのでしょうか。

事務局：公立幼稚園のあり方検討会として、幼稚園の視点に立ち、検討を進めています
が、森町には私立の保育所もある中で、私立保育所が認定こども園に移行した場合においては、教育・保育の供給量や需要への影響が考えられます。町全体として教育・保育を考え、例えば森町にある保育所が全てこども園になった場合、公立幼稚園はこども園化すべきかどうかなどの検討が必要になる状況も考えられたため、方針に記載しております。しかし、こども園化の検討の一つの要素としても考えることができると思っていますので、あえて記載しないこととしても、問題は無いと思っております。

会長：記載があっても良いと思うのですが、私立保育所の動向で方針が変わってしまう可能性が全くないわけではないというように理解しておけば良いのかなと考えています。

委員の皆様の意見としては、概ねこちらの方針で問題なく、大変よく作成されているということでした。

大きな変更等の意見はございませんでしたので、「公立幼稚園のあり方に関する今後の方針」について委員の皆様の承認のうえ事務局案のとおり方針を決定することといたします。

(3) その他

事務局：会議録を文字に起こす中で、表現が変わってしまった部分もあるかと思います。記録として残していくものになりますので、修正したい箇所等ありましたらお伝えいただければと思います。第3回の会議録について修正点も含めて、再度見直しをさせていただき、問題がないようでしたら、ホームページに掲載させていただきます。

会長：ありがとうございます。

昨年7月から4回にわたって開催してきた森町公立幼稚園のあり方検討会も今回で最後となりますので、最後に各委員の皆様から検討会の感想等を一言ずついただければと思います。

委員：検討会に参加し、改めて自分の勤めている公立幼稚園のあり方を考える良い機会になりました。公立ということで、地元の子どもたちが通ってくるのが当たり前で、何十年も勤めているわけですが、就労する家庭が増えたり、無償化があったりで、あれよあれよという間に子ども数も減ってしまい、危機感を感じています。

先ほどからも話が出ているように幼稚園の魅力伝えていく、その発信の大切さも改めて感じる機会となりました。とにかく幼稚園の職員としては、現場でできることを精いっぱいやっていきたいなということを実際に改めて思いました。ありがとうございました。

委員：1年間ありがとうございました。感想になってしまうのですが、本当に先生方がいろいろ工夫していただいているのを間近で見ることができて、いい経験だったと思います。

認定こども園化に私は賛成していますが、会長がおっしゃったように、先生の負担も増えるというのは重々承知の上ですが、社会の実情に合った形で、引き続き魅力ある幼稚園を発信していただければと思います。

私の子どもは年中なので、あと1年で幼稚園生活も終わってしまうのですが、これからもどのような幼稚園の姿になっていくのかを楽しみにしています。

委員：仕事で子どものオーケストラの事務をやっていたことがありました。その時の常任指揮者の方が子どもは天才だ、子どもが上手にならないのは大人のせいだと、君にも責任があると事務方や指導者に言っていたのを思い出しました。子どもたちがどのように育っていくのかというのは大人の技量だったり責任だったりがあるのかなと感じておりました、それに微力ですけれども関わったというのはとても嬉しいことです。

うちの子は年長でございますので、あと2ヶ月しか幼稚園には関わらないですが、今後は地域のいちおじさんとして、町の幼稚園に協力できることをしていきたいなと思います。今回良い機会をいただきましてどうもありがとうございました。

委員：幼稚園のPTAの会長を務めている関係で検討会に参加させていただきましたが、いろいろなお話を聞かせていただき、資料を拝見するなかで、このような見方もあるんだなということを学ばせていただきました。

私の子どもも年長なのであと2ヶ月で卒園式です。本当に楽しく過ごすことができたのではないかと思います。これからものびのびと笑顔で通える幼児教育の施設であれば良いなど改めて思いました。

委員：私は小学校、中学校で養護教諭をしていました。そのため、児童・生徒を見ていたのですが、今回、幼児教育について勉強させていただきました。ありがとうございました。

委員：各小学校、各幼稚園で幼保小架け橋プログラムで、幼保小の接続を森町も研究をしてきて実践をしているところです。今回このような会議に参加させていただいて改めて公立幼稚園の良さを感じ、各小学校との繋がりをまた考えていきたいなと思いました。ありがとうございました。

委員：森町の幼稚園に勤めて5年になりますが、振り返るとすごく変化のある5年間だったなと思います。園児の数は半分ぐらいになりましたし、一宮幼稚園、天方幼稚園が休園になりました。検討会もあって先をいろいろ考えるようになりましたが、大変な数年間だったなと思います。ただ、その中でも森町の幼稚園の先生たちはとても熱心によく考えて、子どもたちをよく伸ばそうという考えを持って保育をしておりますので、ぜひその良さを、伝えて、アピールできればいいなと思っています。ありがとうございました。

会長：私からも一言お礼と感想を述べさせていただきたいなと思います。委員の1人と数年前に夏休みの研修会で、何日間も一緒に学ばせていただいたという経緯があり、森町の幼稚園にもすごく興味を持っておりました。今回、飯田幼稚園に訪問させていただき、非常に温かい保育をしていらっしゃるということが分かりました。

森町には遠江総合高校に学校評議員の頃から、年に1、2回訪問させていただいていますが、今回、休園になった幼稚園含めて5つの園がどの位置関係にあるのかですとか、どのように町が成り立ってきたのか、今どのようなまちづくりをなさっているのかということまで森町のことを知るきっかけになりました。

冒頭でもお話しましたが、この会議の中で様々な立場の方々のご意見を伺い、そして事務局との準備等のところでのやりとりなど全てに関して、本当に森町は温かいところだなと思いました。住んでいる人にはなかなかわからない良さが、森町には沢山あってそれを発信していけたらと思います。1年間いろいろな面で本当にお世話になりました。ありがとうございました。

それでは、以上で全ての議事を終了し進行を事務局へお返しいたします。

事務局：田宮会長議事進行ありがとうございました。これにて全ての議事が終了となりました。

最後に健康こども課長の朝比奈から挨拶申し上げます。

課長：本日はお忙しい中、公立幼稚園のあり方検討会にご参加賜り誠にありがとうございました。お集まりの皆様方におかれましては、昨年7月の検討会から6ヶ月間、延べ4回にわたり、それぞれの立場から、たくさんの貴重なご意見をいただき、公立幼稚園のあり方に関する方針について、本日まとめることができました。この場をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

田宮会長におかれましては様々な知見から、森町の幼児教育や町の進むべき方向をお考えいただき、また、このあり方検討会がよりよい方向になるようご尽力いただいたことに大変感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

この会が始まる前までは、私達も不安が沢山ありましたが、本当に皆様からいろいろなご意見をいただいて、これほどまでに幼稚園のことを一生懸命考えてくださっているのだというのが、ひしひしと伝わってきて、大変嬉しく思っております。

今回とりまとめた方針をこれからどう生かしていくかが一番大事だと思っておりますので、また引き続きご協力いただきたいと思います。

今回まとめた方針については、町長に報告をし、2月に実施予定の森町総合教育会議で報告承認をいただきまして、次年度になりますが、6月の森町議会での説明を予定しております。その後、森町のホームページにて方針を公開する予定です。

まず私達がやらなくてはならないのは、森町の幼児教育の魅力やいいところをたくさんの方に伝えていくこと、それから保護者や地域の方々、関係者と一緒に公立幼稚園をどのようにしていくのかを考えていくことだと思っておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

会長をはじめ委員の皆様方におかれましては、それぞれの分野での益々ご活躍されますことをご期待申し上げるとともに、引き続き町の幼児教育や保健福祉行政にご協力を賜りますようお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

4 事務連絡（幼稚園保育園係長）

第4回検討会の会議録と公立幼稚園のあり方に関する今後の方針の確認について

5 閉会（課長補佐）

以上「第4回森町公立幼稚園のあり方検討会」閉会